

# 笑顔 燦 燦



## 「人とつながる力」と「学校で学ぶ意味」

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業から始まった1年でした。私たち教員も「子供たちが学校に来るのは当たり前」と思っていましたし、子供たちやご家庭の方も「学校に行くのは当たり前」と思っておられたのではないのでしょうか。ところが学校が突然の臨時休業。しかもいつまでお休みなのか先が見えない状況でした。そんな状況の中で、今後の学校の教育課程を考える時、「学校で学ぶ意味は?」「学校でないとできないこととは?」等々、学校での学びの意味を否定なく考える場面に追い込まれました。

以前、子供の発達と育ちの課題に造詣の深い臨床心理士の岡崎光洋先生のお話を聞く機会がありました。話の冒頭で先生は受講者である保護者のみなさんに、「もし、学校がなかったら?何が困る?」と問いかけられました。その時の受講者からは、「勉強がわからなくなる。」「働きに行けなくなる。」等、様々な意見が出されました。岡崎先生は、その意見を聞いた上で、学校の最も重要な目的として、「子供たちに対人関係の力を身につけさせること。」だと言われました。さらに、「学校生活は集団生活であり他者が存在します。他者がいる集団生活だからこそ、他者と自己とをすりあわせるために、摩擦があり、我慢を強いられます。時には喧嘩もあるでしょう。意地悪もあるかもしれません。それでも互いによりよい関係を築くために、自分にはどのような立ち振る舞いが求められるかを試行錯誤しながら解決策を会得していく。このプロセスを経験することが子供時代には是非必要であり、大人になり社会に出たときにその経験がものを言う。そして、その経験を積む練習の場こそ学校である。」と話されました。さらに、子供の人生をプロ野球にたとえて、「1月は自主トレの期間『家庭での学び』であり、2月からのキャンプは『学校での学び』。そして、長いシーズンが『社会生活』。社会生活に出るまでの、自主トレ(家庭)とキャンプ(学校)において、しっかり社会で生き抜く体力と技術を身につけないと、長いシーズン(社会生活)を生き抜けません。」と続けられました。



ただ、子供たちにすべて委ねることが最善とは限りません。なかには、当事者である子供たちが、どんなに試行錯誤しても解決に至らなかったり、自力で解決するにはあまりにも困難な状況だったりする場合があります。その最たるものがいわゆる「いじめ」と言われるものです。いじめに関しては、私たち大人が、「いじめは絶対に許さない」という視点を持ち、その解消に向け、子供たちの関係に関与して行く必要があります。

八代小学校では、日頃の子供たちの様子に気を配ると共に、表面化しない心の声をとらえるため、年間3回の児童へのアンケート調査とそれに伴う一对一の教育相談を行っています。今年度もアンケートと教育相談を通して、16件の事案をいじめ事案ととらえ、担任も交えその解決を図りました。現在では、すべての事案とも解消しています。

これからも、八代小学校では、子供たちの「人とつながる力」の機会を保障しながら、教育活動を進めていきたいと考えています。



## 今後の学校行事について

熊本県独自の非常事態宣言が出され、コロナ渦の影響はまだまだ先が見通せない状況です。今後の諸行事についても、感染状況等を見定めながら、実施の有無や実施方法の変更等を検討してまいります。現時点(R3.2.1現在)においては、下記のとおりです。今後、変更等がありましたら随時お知らせいたします。

- 来年度新入学児童入学説明会(2月4日)・・・保護者のみで実施予定
- 授業参観、学級懇談(2月26日)・・・中止
- お別れ遠足(3月5日)・・・学年別等、実施方法及び内容を変更して実施予定
- 卒業式(3月24日)・・・内容を精選した上で、卒業生、保護者、職員のみで実施予定